



【鶴舞・千種エリア】

実証フィールド：エリア最大級のビヤ総合レストラン

募集中の実証テーマ・キーワード

本フィールドでは、主に以下のテーマ・先端技術に関連するソリューションを募集しています。

- 💡 **本実証は単なる技術検証に留まらず、実装に繋がる取り組みを対象としており、愛知県内他エリアへの横展開（波及）を見据えたショーケースとなることを目指しています。スケールアップを視野に入れた意欲的な提案をお待ちしています。**

AR/VR・顧客体験

ロボット/AI アバター/レコメンド・需要喚起&消費拡大

- テーマ1：【顧客体験価値の向上】クラフトビール製造の様子の可視化
- テーマ2：【需要喚起&消費拡大】インバウンド顧客も含めた商品のプッシュ型 PR

▶ 各テーマの背景・課題の詳細は本資料下部をご確認ください

※ 本募集の採択件数は 2 つのテーマを合わせて合計 1 件のみとなります。

基本情報

施設	サッポロビール名古屋ビール園 浩養園 https://www.kouyouen.jp/index.html
住所	愛知県名古屋市千種区千種 2 丁目 24-10
アクセス	<地下鉄を利用する場合> 桜通線「吹上駅」から徒歩約 10 分／鶴舞線「鶴舞駅」から徒歩約 13 分／東山線「千種駅」から徒歩約 13 分 <JR を利用する場合> 中央本線「鶴舞駅」「千種駅」から徒歩約 13 分 <車を利用する場合> 名古屋駅から車で約 20 分／栄中心部から車で約 9 分
実証想定時期	2026 年 7 月～2026 年 12 月を想定 ※事業決定後速やかにマッチングを行い、実証準備を進めるスケジュールとなります。 ※実証実験は最遅でも 9 月には開始することが必須となります。
設備・インフラ	電力使用量が大きくない場合に限り、電源設備が提供可能 データ容量が多くない場合に限り、Wi-Fi が提供可能
人員・体制	「サッポロビール名古屋ビール園 浩養園」により適宜支援が可能
留意事項	—



事業・フィールド概要

当フィールドとなる「サッポロビール名古屋ビール園 浩養園」はクラフトビール醸造所が提供する飲食店であり、園内にある醸造所で、厳選された素材と技術者の熟練の技を持って造られるクラフトビールを味わうことができるのが特徴です。



400席の開放的な焼肉ホール、プライベートな空間を提供する個室レストラン、特別な時間が過ごせるアトリウムホール、屋外のビヤガーデン、大宴会・式典の催事会場等、多岐にわたる形態の飲食サービスを展開しており、インバウンドを含め非常に様々な方が訪問する、当エリア最大のビヤ総合レストランです。

本プロジェクトでは、当エリア最大の総合レストランをフィールドとして、スタートアップの先端技術の実装を見据えて実社会で検証する絶好の機会を提供します。

フィールドの魅力



① エリア最大の総合レストラン

多岐にわたる形態の飲食店を展開していることから、非常に様々な属性の方が訪問する施設であり、より多くの目線からの検証を行うことが可能です。



② 多くのインバウンド層の来訪

訪問者にはインバウンド層が多く含まれており、海外の方に向けたソリューションに関する実証実験も可能です。

課題・興味のある実証テーマ

当エリアでは、以下の2つのテーマに基づくデジタル技術（AR/VR、プロジェクションマッピング、ロボット、レコメンド技術等）の提案を求めています。

特に、施設訪問者の興味・関心を引き、“思わず拡散（Share）したくなる”ような体験を創造することを期待しています。

テーマ1：【顧客体験価値の向上】クラフトビール製造の様子の可視化

【背景・課題】

浩養園では、顧客体験価値の更なる向上を必要としています。施設内には醸造タンクが展示しており、この醸造タンクの中でどのようにクラフトビールが製造されているのかについて、デジタル技術を活用して見える化・体験できるようなことに関心があります。



【求めるソリューション・期待すること】

上記のような顧客体験価値の向上のため、AR/VRやプロジェクションマッピング等の技術提案を求めています。

AR/VR

プロジェクションマッピング

テーマ2：【需要喚起&消費拡大】インバウンド顧客も含めた商品のプッシュ型PR

【背景・課題】

浩養園では、インバウンド顧客も多く訪問されますが、インバウンド顧客に対して、さらにクラフトビールをアピールしたいと思っています。効果的なPRによって、需要喚起・消費拡大を促すことが求められています。



【求めるソリューション・期待すること】

インバウンド顧客に対して、効果的・効率的に商品をセールスするため、ロボットやAIアバター等の顧客にレコメンドを行うような技術提案を求めています。顧客の声を分析して、レコメンドの内容を改善するような技術にも関心があります。

ロボット

AIアバター

レコメンド技術